

大学の職員であること

—FD・SDセミナーに参加して—

首都大学東京管理部理系学務課都市環境学部教務係
鎧 佐和子

私は1年5カ月間の非常勤契約職員を経て、平成22年4月から常勤契約職員となりました。その約2カ月後の5月28・29日にFD・SDセミナーに参加する機会をいただきました。

全く異なる職務内容に携わって2カ月弱、気持ちばかりが先走り、配属先の同僚に負担をかけていたかもしれません。仕事を早く覚えなければというプレッシャーで、疲労も感じ始めた時期でしたので、他の部署に配属された正規職員・常勤契約職員の新規採用の方々とコミュニケーションをとることで視野を広げ、気持ちを切り替える良い機会になると期待して参加しました。

一日目は昼食後、職場から直行して、午後からFD・SD合同プログラムを受けました。教員と職員が一堂に会し、同じ講演を聴講するというスタイルでした。

講演は3つ、1. 筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授・大学研究センター長（前理事・副学長）吉武博通先生の「教育研究と大学経営の質の持続的向上に向けて」、2. 本学都市教養学部経営学系教授 山下英明先生の「基礎・教養教育における検討課題」、3. 東京大学大学院教育学研究科教授 牧野篤先生の「生きるための大学」をいずれも興味深く拝聴しました。

各講義を聴講し、『総じて今、大学という研究教育機関が置かれている内外の環境を広い視野で捉え、困難を十分認識し法人を支えてゆかなければならない。本大学にはこのような状況でも飛躍可能な資質があるのだから、可能性の芽を開花させるために教職員ともに努力して大学という器とそこにいる学生をそれぞれ携われるところから徐々に盛りたててゆこうという気概を持つように』というメッセージと受け取りました。

研修後に、常勤契約職員になってからのこの2ヶ月間で、自分に何が足りなかったのかを自問してみました。

思い返せば、木を見て森を見ていなかったのだと感じます。個人の業務スキルをアップさせることはもちろん大切ですが、その目的が何であるかということをもっと意識せねばならないと痛感しました。組織全体が進もうとする将来像・目指すゴールを各個人がしっかり意識した上で、組織として良質なアウトプットを出す為に個人が何をすべきか、常にこのことを念頭に置き業務を遂行せねばならないと強く感じました。

短期間で人が循環する構造となっている法人内のこと、今後私が頼っている先輩が異動されて、新しい職員が配属されることがあるか思います。そのときに、組織が変わらず機能する為、先輩同様に新人さんをフォローできるだけの力を身につけようと、この研修で気持ちを切り換えることができました。

研修後の夕食時や自由参加の懇談会、その他で個別に皆さんとコミュニケーションが図れたことも、宿泊研修に参加できたことの大きな収穫でした。

研修二日目は、少人数グループでテーマの「魅力ある大学・高専を上げるために私たち職員がなすべきことは何か」について討議し、グループ内の意見をまとめ、他の職員の前で発表する経験をさせていただきました。

大変緊張するものではありませんでしたが、他のグループの発表を聞くことも、また、自らの意見が盛り込まれている内容をグループの代表者に大勢の前で発表してもらうという体験は、とても興味深く、刺激的なものでした。

研修を通じ、自分が失念していたことを思い出すことが出来たこと、新しい知識を得ることが出来たこと、様々の方とコミュニケーションが取れたことは非常に有意義であったと思います。今後は研修で学んだことを活かし、大学職員として、質の高いアウトプットを出し続けたいと決意を新たにしています。